

日々の喧騒から抜け出し

自然と接しひと時を過ぎす

”新緑みずみずしい早船の里山で、心もカラダもいやしてみませんか”をテーマに『アジサイ鑑賞と森林散策』が、6月25日に行われました。

アジサイの咲く小路 新緑まぶしい早船里山

アジサイ観賞のため、自然と触れ合うため、心に癒しを、心身にパワーを求めたい…など目的はさまざまに参集した35人。主催の『早船里山の会』代表實川さんから「アジサイを観賞、森林浴、小鳥もさえずっています。のんびりと焦らず歩いてください。」とあいさつがあり、自然と触れ合う5kmの里山散策が始まりました。

最初に出会ったアジサイの小路。「アジサイを植えたところ昨年の暑さでだめになり、今、畑で400本育てています」と話す實川さん。



▲思い思いに散策を楽しみます



足元をしつかりと踏みしめ森の中へ入ると、小鳥のさえずりが、風の音が…。

立ち止まっては、深呼吸。木々の匂いを思いつきりかぐ参加者。

また、「これは、やぶみょうがかな」「いつ花が咲くの?」「かわいい花が咲いている」なんてあちらこちらから会話が聞こえてきます。



▲木漏れ日、コカリナの演奏は、私たち散策者をやさしく包む

散策の途中、林の中にシートを敷き、コカリナのミニコンサートが披露されました。

皆さん、森林の中で寝転び、土や草の匂いをかぎ、空を見上げながらコカリナ演奏を聞いていました。「森が歌っている」「木々が揺れている」「癒されるね」など参加者から声があがり、このゆったりとした時間を楽しんでいました。

これからの里山

早船里山の会は、平成18年に設立し、早船の台地をエリアとして活動。約3.2haの早船里山には、桜500本、アジサイ350本、もみじなど併せて1200本ほど植栽されているとのこと。



實川さんは、「里山全体が荒廃している現状をこのまま次世代に渡してよいのか、観光イチョゴと併せて観光の名称をつくりたい、生きた証として地域に恩返しをしたい」などの思いからこの会を立ち上げました。これから里山を維持していくのが大変だが、多くの方の力があって、多くの方の力添えがありここまでになりました。さらに整備し「教育の森」として小・中学校の教育的な事に活用したり、高齢者や障害者に「癒しの森」として童謡コンサートを開催など皆さんと一緒に活動を盛り上げていきたいと熱く實川さんは語ります。



▼木からパワーをもらいます